

大道理かわら版 むくろじ

第二四回 大道理ほたる観賞の夕べ 両日とも盛況に開催

「第二十四回大道理ほたる観賞の夕べ」が六月十日（金）、十一日（土）の両日開催され、多くの方にお越し頂きました！



夢求の里交流館から見た「ほたる観賞の夕べ」会場です

日が沈むまではご家族や友人同士、お仲間などで食事をされながらステージイベントをご覧になったり、楽しくお話されたり、賑々しく和やかな雰囲気会場を包んでいました。日没後に蛍が飛び交う時間になると、行灯が灯された幻想的な雰囲気のホテルロードを蛍を眺めながらの散策を堪能されていました。

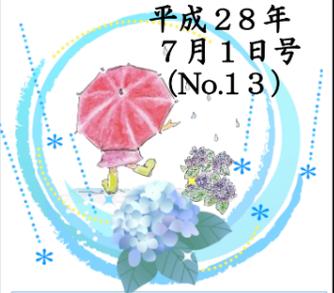
参道を厳かに彩るロウソクの灯

今年、三嶋神社の参道（階段）にロウソクを灯し、ほたる祭の夜に幻想的な彩を添えました。左上の写真は日没直後、左下は夜になってからの様子です。



発行元
大道理夢求の里交流館
運営協議会
TEL : 0834-88-1830

平成28年
7月1日号
(No.13)



大道理地区の世帯数と人口
世帯数 191世帯
人口 397人
男性 182人
女性 215人
(平成28年5月31日現在)

ほたる祭会場の当日風景



ホテルロードに灯された行灯



写真上下 バザーでの様子です



日没前の祭会場の様子です

「ステージイベントの様子」



ハワイアンバンドの演奏とフラダンス



オカリナの演奏をされています

二〇一六年四月始動！大道理地区 むやいネット地区ステーション

ひと 地域福祉コーディネーター 篠原友子さん（日野）

周南市では「孤独死や孤立死をなくそう」という強い思いから、公的支援として、一人暮らしの高齢者の安否不明に関わる情報を集中的に収集する対応や、二十四時間対応の相談機能を持った「周南市もやいネットセンター」を平成二十五年に設置しました。

安否情報の収集としての具体的な例を挙げると、「地域の方々に関わりのある事業者の皆様が、日常業務の中でさりげない高齢者等の見守り活動を行う」（周南市ホームページより抜粋）というものなどで、高齢者等の異変を察知した場合には、その情報を市や関係機関に連絡することにより、高齢者等が住み慣れた地域で安心して暮らせる環境づくりを進めることを目的とした仕組み作りが行われています。市社協もそれに呼応して、希望する地区社協に「もやいネット地区ステーション」を設置し、地区社協から選出された地域福祉コーディネーターを配置しました。現在の見守りネットワーク活動をよりしっかりと強固なものにして、福祉関係者が重層的な見守り活動を地域の中で展開していくため、

大道理地区でも「もやいネット地区ステーション」を設置することになりました。大道理地区の「もやいネット地区ステーション」で活動を始めたのは、大道理地区日野にお住まいの篠原友子さんです。



職場での事務作業風景です

昨年三月末に定年退職されるまで、看護師として勤めて来られた篠原さん。地域福祉コーディネーターに携わられることとなったきっかけや、活動を始められてからのことなどについてお話を聞きました。

看護師として経験されたこと

「病院では様々な部署を経験しましたが、定年前の十数年間は病院付属の「介護老人保健施設」での勤務を経験しました。」

「病院勤務だけでなく医療面で患者さんと関わるのが主な仕事内容となりませんが、介護老人保健施設では、介護と医療の両方を経験し、スタッフとの関わりも医師、看護師だけでなく、介護福祉士、リハビリ士を担われる理学療法士、作業療法士、相談員の方との関わりなど様々な方との関わりが深くなり、仕事の面でも研究発表をしたり、施設での出し物としてスタッフで劇、踊りなどをしたりと色々な経験をして、このことが今回の地域福祉コーディネーターへと繋がっています。徳山の市街地に住んでいましたが、平成九年に大道理へ帰りました。仕事をしていた時は多忙で、地域の行事に参加できませんでした。定年退職して、もっと大道理に関わりたと思いました。」

地域福祉コーディネーターについては社協の広報誌を見て知り、最初は研修を受けて初めて資格がもらえるものだろうと考えて、向道支所にどのようなしたら地域福祉コーディネーターになれるのかを聞きました。それから向道支所長が社協に問合せをして下さり、社協の方から「いづれ、大道理地区で「もやいネット地区ステーション」を設置する時はお願いします」と言われ、この度依頼があり、お受けしました。」

四月十三日から活動がスタートした篠原さん。現在は毎週水曜日、午前十時から午後三時まで活動しています。現在は河内地区、横川地区、畑地区にお住まいの方を訪問しています。まず皆さんに顔を知ってもらって、信頼関係を築くことが大切だと思います。お一人暮らしの方は、一日誰とも話をしていない日もあって、そういう時、誰かと話をしたり、一緒に歌を歌ったりして気分転換したいと思われることがあると思います。その時、「来てほしい」と気軽に依頼して頂けると、福祉員さん、民生委員さんに伝えてから訪問します。



活動への思い、これからのこと

訪問してお話する方々は皆さん大道理の大先輩なので、いろんなことを教えて頂けて、自分にとっても学びになります。



もやいネット大道理地区ステーションの看板の前で。向道支所 夢求の里交流館玄関前にはもやいネットステーションの看板が掛けられています。

活動は始まったばかりで、訪問してお話した方々は皆さんお元気だという印象がありますが、その中で気になることがあれば民生委員さんにお伝えするようにしています。このように連携して一緒に活動していくことはいいなと感じています。

大道理地区は、人と人の繋がりが濃い地域で、地域福祉コーディネーターとして活動をしていくのにも恵まれた環境にあります。地域の中で活動をしてもらえる福祉員さんや民生委員さんに少しずつ溶け込んでいけたらいいなと思います。民生委員さんとは全員お会いできましたが、まだ福祉員さんには全員お会いできていないので、委員会などにお邪魔したりして皆さんとお会いしたいです。これから、皆さんの協力を得ながら、少しずつ活動を進めていきたいです！

【もやいネット地区ステーションとは】

「公民館等に地域福祉コーディネーターを配置し、「見守り上、気掛かりな方」を対象に訪問支援活動を行う地域の見守り拠点です」(周南市ホームページより抜粋)

【地域福祉コーディネーターの主な活動内容】

「友愛訪問活動」で訪問した中で、気がかりな方がおられた時に、民生委員さん福祉員さんから依頼を受けて、地域福祉コーディネーターさんが訪問します。安否確認をされるとともに、生活の課題があれば関係機関に連絡して、リスクの軽減をしたり、孤独感の軽減に努めます。

【訪問活動の対象者】

六十五歳以上の一人暮らしの方が対象。

【活動の時間】 一日五時間、月に六日。向道地区では、大道理地区に一人。大向地区に一人。

「生活交通もやい便」運転手に新たに六名が登録されました！

大道理地区の生活交通として昨年十月に本格運転を開始した「もやい便」に新たに六人の方が運転手の登録をされました！



もやい便の運転手に登録された6名の方です。左から秋積達雄さん、福田国雄さん、森田清美さん、兼俊勉さん、山田事務長、兼俊勝さん

こちらの六名の皆さんは、今年五月に宇部市の運転免許講習所で、有償運転を行う方々のための「移動サービス認定運転者講習」を受けられ、実際に講習を受けた方の中のお二人は六月から運転手としての活動を始められました。平成二十六年十月に「もやい便」の実証運行が始まり、二人の運転手の方が交替で運行されて

いきましたが、これからも長く「もやい便」を継続していくために、運転手として活動できる方を増やすこととなりました。大道理地区の皆さんに、新しく運転手として登録された方の顔を知って頂いて、運転手の登録をされたことへの思い、実際運転手として活動されることになった時に、どのような気持ちで臨まれるのかについてお伝えするため、今回登録された皆さんにお話を聞きました。



皆さんが受けられた、有償運転者講習の時間割を見せて頂いたところ、午前中は安全に利用者に乗せて運転するために必要な知識の座学講義があり、午後からは実際にコースに出て運転

実技の講習、という内容となっていました。講習会を受けて、運転手として必要な知識や技能について意識が変わりましたかという質問をすると、「目の不自由な人、車イスに乗られている方を車に乗せる時のことなど、初めて今回知ることが出来た。利用者さんについて、様々な状況が考えられることに気が付いた」という意見や、「車のドアを運転者が開けて、利用者が乗車して、座ってシートベルトを締められたのをきちんと確認してから初めて発車しないといけない。安心して安全に利用して頂くための必要な知識について、講習を受けてみて改めて確認できた」と話される方もおられました。また実技講習のコースでの運転は皆さん免許を取って以来のことだということで、様々なエピソードが飛び出しました。

地域の皆さまへ伝えたいこと

それから、運転手に登録された方の「もやい便運転手」として心掛けたこと、これからの思い、利用される方へ伝えたいことについて、それぞれお話しして頂きました。

森田清美さん「せっかく始まった生活交通もやい便。今後継続する為には後継者を育てて引き継いでいかないといいけない。兼俊勉さん「気軽に使ってほしいです。大道理の中で、お友達の家へ遊びに行かれる時なども、遠慮せずに利用して頂きたいです。」

兼俊勝さん「利用される方の顔をまず覚えて、ご自宅の場所を知っていきいことからはじめたい。運転手として安全運転を心掛けたいです。」

秋積達雄さん「運転手登録は、地域の方の役に立ちたい気持ちで応募しました。自分の十年先を考えた時、「生活交通もやい便」という仕組みは「自分にとっても地域にとっても必要な仕組み」だと思っています。もやい便は利用される方の年齢制限はありません。皆さんにはもっと気軽に利用してほしいです。利用された方はご近所の方にももやい便のことをお話ししてほしい。広報紙等でもやい便についてPRしていきたいです。」



皆さん和気あいあいとした雰囲気です

最後に、森田さんの「皆さん、お互い協力しながらやっていきましょう」という言葉が締めとなりましたが、お話を伺っている間何度となく、「もやい便は大道理にとっても大切な仕組みだ」と皆さんおっしゃり、「自分たちのように定年退職した立場の人間でしか実際に運転手としての活動は出来ないけれど、年齢的なこともあるので、一、二年先のことを常に見ながら運転手を探して育てていきたい。これから先もずっと、継続していきたい」といけな」とおっしゃっていました。

夢求の里交流館からのお知らせ

ミニサロンのお知らせ

日時：7月13日(水) 13時30分～16時
場所：大道理夢求の里交流館 大会議室
対象者：男女年齢問わず どなたでも歓迎
備考：ご希望の方は、送迎をいたします

サロンのお誘い

日時：7月27日(水) 10時30分～16時
場所：大道理夢求の里交流館 大会議室
対象者：男女年齢問わず どなたでも歓迎
備考：ご希望の方は、送迎をいたします

★午後三時頃 道の駅ソレーネ周南「移動販売車」来館予定です！



編集後記

今年の梅雨は雨が多く、しかも身の危険を感じるほど激しい降り方をします。大道理地区内でも斜面が崩れ、ご自宅での生活が困難となった方もおられるなど、深刻な被害が出ています。ご自宅付近で普段とは違う異変や身の危険を感じられた場合は、ご家族、ご親戚の所などへ早めに避難され、身の安全を確保して下さい。今回のむくろじは、新しくもやい便運転手に登録された六人の方と、地域福祉コーディネーターの篠原友子さんにお話を伺いました。もやい便は、新たに登録された方の中で六月二十二日現在、二人の方が活動を始められています。皆さんお話しの中で、「とても大切な仕組みだ」とお話し下さいました。大道理地区と隣接する地域に住まう私自身も、夢求の里交流館での仕事をさせて頂く前、このような仕組みがあればと痛感した体験がありました。自宅前で転倒し右足を捻挫して、病院へ行こうにも痛くて運転できないけれど、救急車を呼ぶには大げさで申し訳ない。バスに乗るうにも国道へ出るまで距離があつて歩いて出られない。となり、本当に困りました。遠方で申し訳なかったのですが、防府市の知人に来てもらって、木曜午後診察してくれる下松市の外科に連れて行ってもらい、運転が出来なければしばらくは買い物にも行けず、生活に困るだろうからと防府市の実家まで連れて帰ってもらいました。中山間地域で暮らしは公共交通機関を利用しづらい環境であっても、健康ならば楽しいものですが、人生初の松葉杖での生活となり、体の自由が利かなくなると、自分の力だけではどうすることも出来なくなることを感じた体験でした。もやい便のような仕組みがあれば、物理的な部分だけでなく、気持ちの面での安心感も全くと違います。お一人暮らしの方、買い物や通院に不自由を感じられる方にとって、もやい便は本当に必要で、この仕組みを支えたいと応募して登録された運転手さん、当初から支えて来られた運転手さん、これからどうぞよろしくお話ししたいと思います！(山縣あきこ)